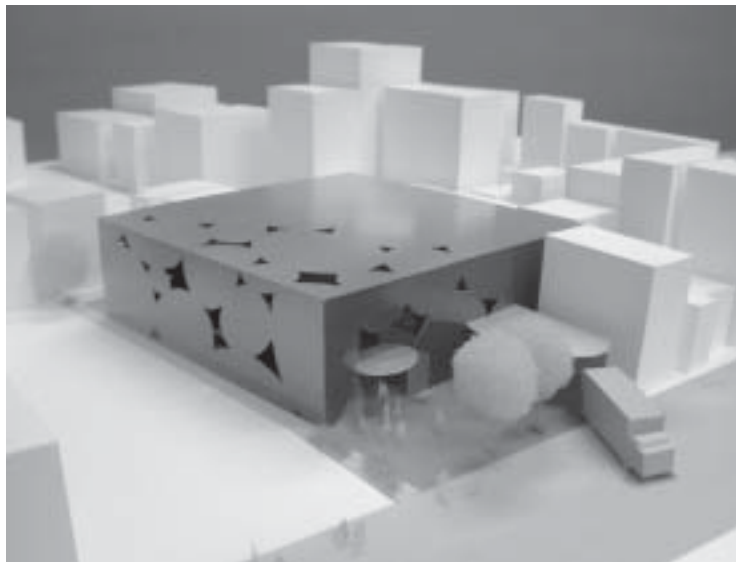


第7巻第5号
通巻第77号

高円寺会館リニューアル

設計者は語る。

芝居小屋をつくる提案に先立ち、松本市民芸術館で行われた、串田和美演出のコーカサスの白墨の輪というステージを観に行った。ブレヒトの作で、松たか子が出演するというのも話題になっていた。松本市民芸術館というのは、オペラハウスと小劇場をもつ本格的な劇場であるが、その作品はオペラ劇場の客席部分を使わずに、田の字型の広いステージスペースだけを使って上演された。ステージ上にこしらえられた、六百人ほどが座れるの仮設の劇場であるが、これが何ともいえぬ、演劇空間の楽しさを味あわせてくれた。オペラ劇場のステージだから、見上げれ



(二面に続く)

発行所 東京都杉並区成田東4丁目3番44号 〒166-0015からす新聞本社

からすホームページ <http://www.go-karasu.com/> 投書・お問い合わせのE-mail : colors@go-karasu.com

庭仕事の忙しい季節になってきた。まあ、忙しいと言ったところで、それを生業にしている訳ではなく、所詮は遊びに過ぎぬからして、威張るほどのことは何も無い。園芸家見習い二年目の私、昨シーズンと比べて多少なりとも進化したところと言えば、自分で選択したものを植えてみているというところ。さやかなオリジナルティ。そうは言っても、パセリだルッコラだ唐辛子だ、と、実用性の伴ったものばかりで、花を愛でるというようないふた方が近い。昨年と同様に、紫蘇とバジルもあるわけで、全部が無事に育ってくれば、この夏、この秋、それなりに収穫を楽しめるのではないかと、少しだけ期待している。

相変わらず、これは雑草なのかどうか、と大きに悩みながら草取りをして、一段落したら、水を撒く。それが私の朝なのであるけれど、それを繰り返しているばかりでは埒が明かなくなってきた。というのも、今年は、なぜか矢鱈に虫に喰われるのである。あちこち齧られ捲っており、そのせいなのか、葉の育ちも悪く、色もぼつとしない。勿論、日光が足りなかったり、気温が低過ぎたりすること

も影響しているのだからけれど、ああ、このままでは全滅してしまつのではないかと、言ってみれば、ある種の親ばか根性で、必要以上に気を揉む次第。「必要以上に」と自ら認識した上で、猶も、必要以上に「気を揉んでしまつのは、最早、これは神経科の領域であるなあ、などと独り言つ。近くに居るのは大小の猫と日替わりで来訪する昆虫の類ばかり。孤独な作業なのである。そして、孤独な作業中には、人はなぜか独り言つのであります。最も被害の大きいのは、唐辛子とバジルである。一体、何処の何奴が私が精根かけな気になつている(植物を歯牙にかけていやがるのか。判然としなない。じつと睨み付けていると、成程、小さい虫がうるちよろしている。アブラムシやウンカの類のようであるけれど、詳らかではない。しかし、連中がちよこちよこ齧つたり、吸つたりしただけで、穴が開いたり、干切られたりするものだろうか。不思議である。こうなつたら、犯人をみつけるまで、寝ずの番をしてやろうかと、又もや親ばかの発想。みつけたら、どうしてくれるか。と、考えたところで、はつたと我に返る。ああ、俺って、殺生しない主義なんじゃん。そうなのである。この私の非殺生主

(最終面に続く)

今日の紙面から

- 一画 オーラ面
芝居小屋をつくる。
- 二画 からすライブラリー
CD『シオスタコービッチ・ソナタ』
アート『難波田史男』
- 三画 映画『さよなら、ハリウッド』
アート『難波田史男』
- 四画(ロンドンレポート)
選べるポポ
- 五画 環境面
東京の化けネズミ

からす新聞は××××が母体となつて、世界に文化と芸術を発信すべく発行しています。

誰でも自由に参加できます(無茶じゃない範囲で)。



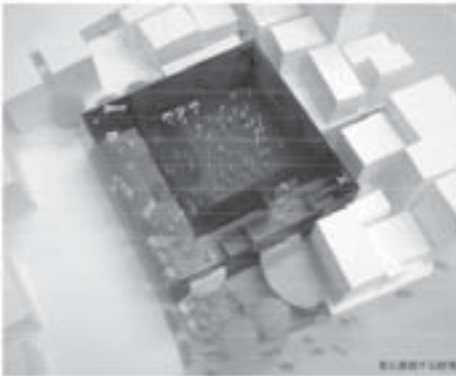
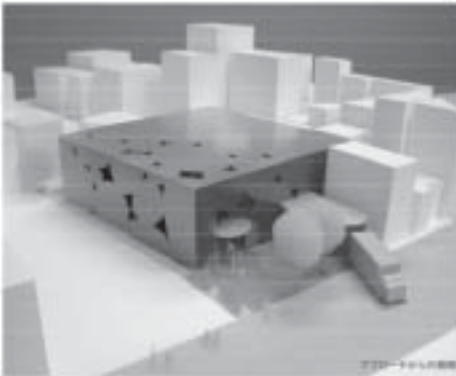
(一面から続く)

ばたくさんのバトンや滑車、照明器具などの舞台装置が吊られているようなまったく機能的な空間である。ただ天井は高く建築の内部空間だと感じない、ような気もする。田の字型ステージの四分の一が主舞台だが、そこに円形のステージが創られていた。周囲に段状の観客席をともなうて設えられているのだが、そこはなんにもないただの空間である。円形劇場だからということもあるが、舞台装置なども一切なく、観客は、まるで村の広場でできごとを見るように、円形のスペースを取囲んでいるような感じすらある。役者も長いステッキのような棒以外は何も持たない。場面の背景やシーンは、例えばそのステッキを組み合わせ四角形をつくることで家を表現したり、光を投光して、森や荒野を円形のスペースに切取るようにつくられる。空間に固定された装置は何もない。効果音も円形の縁の外側で、役者が効果音製造機械を操作することで行きだされる。ステージの円の縁は、観客と舞台を分けるラインだが、役者にとつても、同様に、シーンに参加しているかいないかの境界なのである。もともとこの円形劇場では、観客と役者の距離はとも近いが、観客と演者が、虚構の世界のエッジを共有することで、両者の距離はまた縮まるのである。観客が劇場に入るとき、休憩時間や芝居が終わって客席から出るときに、円形ステージを通らなければいけない仕掛けは、さらに両者の境界をぼかしてゆく。休憩時間には、役者が扮した物売りが、ワインやチーズ

を舞台上で売り、同じく役者が扮したジャズバンドが軽快なリズムを奏で、観客がそれを取囲む。円形ステージが都市空間の広場のようになつて、観客はどんだん演出に引き込まれてゆく。後半のはじまりは裁判の場面であるが、これはもう広場での公開裁判そのものである。円形ステージ中央に裁判官たちがいるのだが、休憩を終わって席に戻る途中の観客は、そのままステージに残つて、劇中の傍聴する群衆となるのだ。なんでもない場所が、演劇的な空間となる。こんなスピリットが、劇場というものの根底にあるべきではないかと思つた。神社の境内にテントを張つただけの空間。劇場という堅苦しさを打ち破り、芝居が本来持つわくわくするような楽しさや猥雑なエネルギーを凝縮した芝居小屋のような場所を作りた。高円寺の街の界限性を取りこみ、路地やストリート、神社の境内のような、自由な交流と表現の場としたいと考えた。そして、単純な箱でありながら、柔らかさや、暖かさ、喜びや楽しさが感じられる空間デザインや素材の選択をする。時代を経ても劣化しない建築的な魅力をもつ骨太な計画とすることが大切だと考えた。

ロンドンやパリの場末などに、機能的に決して近代的でも十分でないけれど決して捨て去ることのできない劇場があるときいた。その場所の独自性や建物の空間の魅力が、昨今新しく作られる劇場建築を凌いで、演出家や観客をひきつけるのだ。どこにでもある劇場や空間、建築ではなく、この場所にしかないような強さをもつた建築をつくらなければいけないと考えた。

(篠崎健一)



芝居小屋をつくる

1. 鉄の小屋

鉄を頭わにした、薄く強い表情を示すキューブ(31m×31m×10m(H))によって、芝居のための場を囲い込もうと試みた。周辺環境に配慮した、地上1層地下2層の建築である。3つの完全にフラットなフロアをもつ。地下の2層は、地上では不可能な水平方向の広がりをもつことができる。地下1階には二つの区民のためのホールを、地下2階にはワークショップを配置して、各層の特色を明確にした。

2. 4つの簡潔なホール

与条件に基づいて、以下の4つのホールとして再構成した。ただし、いずれのホールも形式を限定せず、利用目的も限定されない。オーソドックスな舞台形式を十分にサポートすると同時に、徹底した単純化と拡張性をもつことで高度な舞台芸術創造への可能性を開く。

ホールA(小劇場)地上1階

オーソドックスな小劇場の形式と性能を内包すると同時に、高い遮音性能をもつ可動壁が空間の拡張性をもたらず。出入口、大扉などすべてを開け放せば、ホワイエや搬入ヤードまで含み、外部と一体となる完全にフラットな広がり確保できる。高度な演出が可能なホールである一方、街と一体となった普段着のイベントやパフォーマンスが可能である。

ホールB(区民ホール)地下1階

四方を壁と通路で囲まれた独立性の高いホール。四方に出入口があり、多様な演出に対応できる。セットアップが容易で扱い易い。空間の間口が広く、多様な使い方ができる。

ホールC(阿波踊りホール)地下1階

大きな気積をもち、高い音響効果が期待される。阿波踊りやダンスだけでなく、さまざまな音楽の発表などに使用可能である。天井の高いリハーサル室としても使える。

ホールD(リハーサル室)地下2階

ホールABに想定される舞台より、ひと回り大きな広さの練習場。リハーサルのみだけでなく、発表など多目的な利用も可能である。スタジオカフェには自然光が入る。

3. 街と連続した演劇空間

地上階は強い場所性を保ちつつ、外部と同一レベルで連続することにより都市空間の一部となる。例えば終演後、1階ホワイエやエントランスロビー内外に屋台やジャズライブが出現し、演劇空間を高円寺の街の賑わいへと拡張する。また、人々がエントランスロビーを介して通り抜けできるような境界性をも確保する。

4. 演劇の工場

地下2階には、演劇活動をサポートするためのファクトリーを用意する。このファクトリーやアーカイブを充実させることにより、脚本企画段階から高度な要求に応えうる舞台創造が可能となる。また、これらの空間は、演劇にかかわる人びとを基礎から育てるにも有効である。

5. つくるプロセス

できるだけ早い時期に、管理運営組織、芸術監督、将来の利用者および設計者からなる小屋づくりのためのワークショップをたちあげ、自由で創造的な雰囲気のもとオープンな議論を重ねたい。また、芸術監督を中心とした、演劇ワークショップをプライベート的に開催することも考えたい。そうした議論の成果を独自のかわら版などにより区民に広報活動したい。

6. 室内環境の形成とLCC縮減の考え方

地中外壁に固体音防止材料を用い、外部からの振動を遮断する。4つのホールを浮床構造、地下のホールおよびスタジオはボックスインボックスとすることで内部騒音、振動を遮断する。

温熱環境が安定する地下に使用頻度の高い諸室を配置し、イニシャル、ランニングコストを削減する。契約電力を低く抑えるために小規模なコジェネシステムを導入する。室内の環境基準を見直し過剰な仕様を避け、必要とする場所に必要なエネルギーを必要な時間だけ供給するエリア別の分散型システムとする。





難波田史男

(1941 1974)

難波田史男という夭折^{ようせつ}の抽象画家がいる。父親の龍興一九〇五—一九九七(も日本を代表する抽象画の大家だといふのだが、今年の三月に遺稿整理・編集の仕事を頼まれるまでどちらも名前すら知らなかった。本人もその影響下にあることを否定しないクレーやミロな感じ、と言ってしまうはそれまでだが、独自の線と色彩感覚は一見に値すると思う。長生きしていれば面白かったのに、とも思う。

自筆の日記を今読んでいる最中なのだが、早大学院に通う史男は周りからも変わり者で通っていたに違いない。ただし成績は芳しくなかった。理解してくれる先生も少なかったらしい(本人によれば)。

「私は先週の土曜日欠席しましたので試験のあることを知りませんでした」といふ書きだしで、自分のあらんかぎりの英語力をしぼって先生が出された問題とは似ても似つかぬ英作を書いてしまった。

「私はスポーツを大好きですが今は私にとって少しも関係のない存在です。それは小学6年生の時隣の高橋正君と角力をして左手を骨^{ほね}へっ^ててしまい、母と骨つきやに行き、そこで母が心配のあまりたおれてしまったからです。私はそれくらい、けして角力をしないことにしました。それに順じてあらゆるスポーツが私から去^さっていったのです」

確かこんなような内容だったと記憶しています。
フレンドさんは英作力というより内容に主点を置いて78点という私にとつてどの英語よりもベストの点をつけてくださったのだと思う。

このとき史男は、高校卒業後マドロスになっての世界一周を目指しており、そのための身体を作る目的で三年になって入った水泳部で、連日気が狂ったように遠泳を繰り返している。

学校の勉強より読書こそが真の学問だと信ずる史男は、本ばかり読んでいて妄想三昧の毎日。そんなわけで日記の書かれたことを鵜呑みには出来ないのだが、思い込みの強さと素直さは、生涯を通じて一貫していたようだ。

東京近辺で展覧会の予定は今のところなさそうだが、興味のある向きは、難波田親子の最も充実したコレクションと自賛する、東京オペラシティアートギャラリーのHPを覗いてみてほしい。

<http://www.operacity.jp/ag/exh23.html>

大いに気に入ったのなら、富山県まで足を伸ばせば、難波田龍興・史男記念美術館がある。

(望月)



SHOSTAKOVICH: Sonatas for Violin and Viola

Kagan, Richter, Bashmet

Regis Records、2002年、RRC1128



シヨスタコーヴィツチというのは未だによくわからない作曲家である。よくわからないながらも、漠然と、もわもわとしたイメージを抱いてきた。旧ソ連的な殻に包まれているように思っていたのは、流石に、思い込み激しい私の先入観の問題かもしれないけれど、そう感じられるような何かが少しもなかったとも言えない。聴く私だけでなく、演奏者の心にだって、ぼんやりとそんな幕がかかっていたということだ。だって、ぼんやりとそんな幕がかかっているものではないか。などと、勝手なことを思う。

ところが、このアルバムを耳にして、殻が破れた。シヨスタコーヴィツチ観におけるベルリンの壁崩壊……そんな物謂いは大袈裟に過ぎるけれど、漸く、世界が少し開けたよ。

見るからに気難しげで、内側に不機嫌な哀しみを抱え込んでいるようなおっさん面。今までは、人物には興味を持てなかったけれど、今は、ちょっと呑みに行こうか、と誘ってみたく気がする。酒が進めば、ぼろりと、実はさ、ここだけの話しだけ……なんて、打ち明け話を始めたりして……って、旧ソだったら肅清されてしまっていますか。

シヨスタコーヴィツチが、やあやあと手を挙げながら、人間として現れた。まあ、相変わらず、気難しそうではあるけれど。

(全太)



Hollywood Ending

さよなら、さよならハリウッド

監督・脚本：ウディ・アレン
 出演：ウディ・アレン、ティア・レオーニ
 配給：日活
 制作：2002年 米国
 第55回カンヌ映画祭オープニング作品



(小張寅僧)

「おとなの為のコメディ」そんなキャッチがしっくりきそうな映画。ウディ・アレンは六〇年代からコメディ俳優として多くの映画に出演や演出をしてきた。中でも一番印象に残っているのが七三年にダイアン・キートンと共演し、自ら演出したスリーパーだ。これについての詳細は次の機会に譲が、バカばかりさにかけては抜群だった。そんなウディ・アレンは生粋のニューヨークカーとして(本当はブルックリン生まれだが)、また、作家、脚本家、元々はこれが本業)、ジャズ奏者などなど、多彩な才能をいかんなく発揮している。さらに、小柄で髪は薄く、風体の上がらない容姿とユダヤ人という米国ではあまり好かれるとはいえない条件を見事に自虐的なギャグにすることで大衆に受け入れられていた。そんな中、彼の売りである偏執狂的な要素も培われたようだ。

今回の映画は二〇〇二年に製作されたものが今年になってやっと日本で公開されたもの。アカデミー賞にも輝いた事もある落ち目の映画監督ウディ・アレンに再起のチャンスが訪れるのだが、制作開始前日にストレス性の失明症となってしまう。しかし、周囲に気付かないよう撮影を初めてしまつからもう大変。

原題の「Hollywood Ending」という言葉は、米国で、なんでもかんでもハッピーエンドにしてしまつ事を指す。いかにもハリウッド映画的な終わり方といった意味。そんな「Hollywood Ending」という名前のついた映画だが、はたして結末は……。もちろん、ウディ・アレンお得意の皮肉たっぷりな味わいをご堪能あれ。

尚、本人も七七年の「アーニー・ホール」監督・脚本・主演・共演はダイアン・キートン)でアカデミー作品・監督・脚本・主演女優賞を獲得している。さらに、歴代の受賞作で一番興行成績の低い作品とも言われている。

最後に、ウディ・アレン映画は、大声で笑つより小声でクスツとするほうが断然お洒落ですぞよ。



選べるiPod

前々から調子がおかしかったmp3プレーヤーがとうとう壊れてしまった。フラッシュメモリータイプの128MBの奴で、いつも学校に行くバスの中で使っていたので困ってしまう。色々直そうと試した結果、結局最後はただのメモリー・スティックになってしまった。まだ直る可能性はありつつも、元々激安で買った怪しいメーカーなのでしょうがないのかもしれない。そろそろ新しい物を買う時期なのだろうか。となると、フラッシュメモリータイプのmp3プレーヤーと言ったところで当然Pod shuffleが候補に上がる。実はかなり惹かれていたのだが、すでにフラットメイトが持っているのだから、と避けたいような気がしてしまう。それでは、とうとうあのiPodか、という話しにもなるがiPodも捨てがたい。そんなどうしようもない事を取り留めも無く考えているうちにふと、「もしかしてiPodを買ったら音楽を聴かなくなってしまうかもしれない」と疑問に思った。

例えば今、20GBもの容量があれば僕がここに持っているCDは全部収まってしまっただろう。文字通りの話ではあるが、iPod一つ持ち歩けば、僕は持っているCDを全部持ち歩いているのと同じ事になる。すると、今までしていた週に一度、又は月に一度ぐらいの頻度で何かテーマを決めたり気分によって曲を選び、mp3プレーヤーに移し替えると言う作業が自然と無くなってしまふ。僕は何となく、遠足に行く時のおやつを選ぶようなその感覚が好きなのだ。そして再生する度に毎回、何を聴くのかと言う選択に迫られる事になる。

ランダム再生するにしても、常にその選択はそこにあるのだ。考え過ぎていてはいいから、でも足が向かないのと同じ力がそこに働くような気がするのだ。そのうちに選ぶのが億劫になり、何でも聴けるので、何も聴かない。そんな事は起こらないだろうか？

うーん、ちょっとこれは考え過ぎか。何にせよ僕はiPodが欲しいのだし、人によって色々を使い方はあるだろう。ただ通学の時を使う分には小さいもので十分だ、と言う話だけだったのかもしれない。にしても、何でも選べる出来るといふ落とし穴は、なかなか侮れない事に気が付いた。何でもしていいよと言われて、大抵の事は出来てしまう環境に恵まれていれば、そこで何をしたらいいのかを見つければ、もしかしたら凄く大変なのかもしれない。人はお金や環境、又は自分の能力であったりとかから不便な足かせ、出来ない事や、やらなきゃいけない事があるからこそ、やりたい事を見つけて、目標を立てるに方向って頑張るのかもしれない。何でも出来る凄く才能に溢れた人が、気が付いたら結局何もやらない人になってしまった、と言う事は十分あり得るのではないか。幸い()な事に自分には、そんなに素晴らしい才能は備わっていないので、能力と言う足かせはあるものの、環境的には随分と恵まれている気がする。この年で学生をやっているというものは良い証拠。そんな環境に恵まれたと言う事は大変有り難い事ではあるが、少なからずとも僕は「選べる」と言う落とし穴にはまっていたのではないかと自分自身に問うてみたくなかった。考えてみた所でやっぱりよく分からなかったし、それに気が付いたからどうだ、と言う結論もないのだがふと、口ばかり動いて偉そうに説教をたれる、何もしない坊主にはなりたくない、そんな事を思ったのである。

(神山)

神戸支所近日オープン！

あなたの平穏な生活を脅かすストーカーを本場米国で培った最新の技術と装備を駆使して退治します。
あなた一人で悩まないでください。

ストーカー バスター

相談無料
秘密厳守

防犯用品販売・
防犯対策指導も
致します。

produced by

P.D.Agency

tora@pda.co.jp

4-3-49-1, Suginami-ku,

Tokyo 166-0015, JAPAN

voice : +81-5347-9063

facsimile : +81-5347-9064

東京の化けネズミ マスクラット

二本足で立ち上がるレッサーパンダの風太くんが話題だが、レッサーパンダって本当にあのパンダの仲間なのかと調べてみたら、確かにどちらもアライグマ科に属するのだそだ(パンダ科との説もあるようだ)。

ところで本家のアライグマと言えば、70年代の「ラスカル」ブームでベトナムに輸入され、飽きられ、捨てられ、野生化したいわゆる帰化動物。そう、その多くが可哀な運命を辿ってきたあの帰化動物たちだ。本紙においては毎年五月号に、これまでニホンイタチ、ハクビシン、アメリカザリガニとその悲哀を紹介してきたわけだが、今回はマスクラットを取り上げる。その気になれば、東京に住むあなたも目にかかれなくてもない珍獣である。(望月)

もう一つのジャコウネズミ

常盤線金町駅から歩いて15分ほどのところにある水元公園。ここに巨大ネズミが住んでいる。水際の湿地帯を好み、頭から胴の長さは三〇センチ前後で、全身毛に覆われているが、二〇センチ前後もある長いくて平たい尻尾には毛がない。この泳ぐときには舵の役割を果たす尻尾が特徴的で、一見するとビーバーと見間違える人もいるかもしれないが、その名はマスクラット muskrat である。

musk は「シヤコウ(麝香)」、rat は「ネズミ」。尻尾の付け根あたりからジャコウのような臭いを放つのでこの名があるが、日本にはすでに別の「ジャコウネズミ」がいるので、マスクラットの名で呼ばれている。原産は北アメリカ。分布地は広く、北部のツンドラから南部の沿岸地方まで、砂漠を除く北アメリカ大陸ほぼ全域に及んでいる。

英国式マスクラット根絶大作戦

マスクラットの体毛は、長くて粗い上毛と、



てワナを仕掛け、捕獲し、殺していったのである。これにより捕えられるマスクラットの数は、年を追って着実に減少し、ついに作戦開始から四年後の一九三六年以降はほとんどワナに掛からなくなった。作戦成功。マスクラット根絶は達成されたのである。

マスクラットで一獲千金!

イギリスの仲間ほどの悲劇には見舞われなかったが、日本に連れてこられたマスクラットたちの運命も、決して幸せだったとは言いがたい。だろ。

太平洋戦争開戦前夜、東京にこんな内容の広告が現れた。

「あなたも高級毛皮で一獲千金! 元手不要!」
マスクラットの繁殖を勧誘しようというのである。ターゲットはおもに江戸川の下流域に生活する農民や漁民たちだった。事実、当時の同地域では実際にイギリス同様の施設がつけられ、マスクラットの養殖が行われていた。

毛皮は主に兵隊が身に付けるものの材料として使われたようだが、程なくして終戦。戦後の混乱の中、厄介者となっていたマスクラットたちは、飼い主たちによって放されたり、自力で逃げ出したりして徐々に野生化していった。ちょうど当時の江戸川河口一帯の湿地帯は、彼らにとって恰好の暮らし場所であった。日本において自然繁殖しているマスクラットが初めて

確認されたのは、昭和22(一九四七)年春とい

うことになっている。

追放、放浪、そして安住の地へ...

いい生活は長続きしない。人間は人間で高度経済成長期に突入。人々の暮らしが上向くことは、すなわちマスクラットたちの暮らしが「下向く」ことを意味した。東京湾岸は至る所で埋め立てが進み、彼らが暮らし江戸川河口域ももちろん例外ではなかった。埋め立て地には続々と工場や宅地が建設され、昭和が終わるころには湾岸に彼らの生きる場所はほとんどなくなってしまった。

それでも日本のマスクラットは細々と生き残っている。数少ないその場所の一つが、当初の生息地からそう遠くないところに位置する水元公園である。どうやら、埋め立てと開発による環境悪化に追い立てられるようにして江戸川をさかのぼっていく途中で、彼らはこの安住の地に巡りあう幸運を得たようなのである。

水元公園は、東京で唯一江戸の水郷の雰囲気を感じられる場所。江戸川と中川に挟まれた地域に確保された広大な敷地の随所に水路や池が配され、さまざまな水生植物が生い茂る。マスクラットにとってこの上ない環境である。確認されているだけで10匹とも20匹ほどと数こそ決して多くはないが、やっこのことで彼らに平穏な生活が保証されることとなった。

いや、そのはずだった、と言った方が正確か。釣り人が放置した釣り針や釣り糸によって傷を負ったりといったことはあるわけだ。

東京で見られる絶滅危惧種 日本だけの話だ。外来だから保護の対象にもならない。もし居なくなる前に目撃したいのであれば、夜行性なので注意。三晩ぐらいの徹夜の張り込みは覚悟しなくちゃいけないようだ。

義にどれ程の理念、どれ程の意味があるのか、と問われると、返答に窮するのであるけれど、兎にも角にも、非殺生主義を漠然と貫こうと思っっている私であるからして、犯人を特定したところで、追い払うのが関の山。追い払えば、一度は立ち去ろうけれど、彼らには彼らの生活があり、孰れ又舞い戻ってくることは必定。私の徹夜の張り番なんぞ何の意味もない。さあ、困った。どうすれば良いのだらう。

そつ短くはない暫し逡巡した結果、私はこんな風に思うことにした。何ものかに齧られるのは、それは手塩に掛けて育てている葉が美味いということの証左である。美味いものに齧り付く。これは生き物として当然の行為なのであるからして、責める訳にはゆかぬ。寧ろ、ああ、美味い葉に育っているんだ

(一面から続く)

ね、良かった、良かった、と喜ぼうではないか、と。お父さん、ぼく、虫に齧られて痛くてかなわないよ、と唐辛子が言つかもしれない。けれども、そんな時には、連中になんて生活つてもがあるんだ、少しくらい我慢してやんねえ、と諭そうではないか、と。その分、もつと栄養のある土を用意してやるさ、と。こう思えば、私がせつせと庭の手入れをすることに、そこに存在する草花ばかりでなく、そこにやってくる虫たちまでをも育てていることになる。今まで以上にやり甲斐のある仕事になったとは言えまいか。単なる花壇だと思っていたのは間違いで、これは昆虫園を兼ねた花壇なのである、と思えば良いのである。そう思えば良いのであるけれど、も、理屈で解決しても、心がそれを受け付けない。朝になって、虫喰いが拡がっているのを発見すると、くそあ、何処の何奴がやりや

がった……って、また怒りの仕切り直し。何ともの狭い私である。

こんな愚かな朝を繰り返している。その愚かさ人間というものの本質だ、などと思ったり。この心中の葛藤が私の精神や感性をより深く広げてくれるのだ、と思ったり。確かにこれは、庭弄りひとつ満足に熟せず、ああでもないこうでもない小理屈を遊び……ふふ、下手の考え休むに似たり、って昔の人は上手いこと言っただもんだ。

下手の考え休むに似たり。確かにそうだろう。けれども、そのプロセスが心を育てるのだよ、と思いたい私がここにいる。唐辛子が実る頃、私の心も実ることを祈念しつつ、本日は筆を擱く次第。

(全太)



万年筆なら dani

<http://danijapan.com/>

bar&kitchen kanna

営業時間
平日・土曜日 11:30~15:00 / 17:30~25:00
日曜日 17:30~25:00

定休日
毎週火曜日 & 毎月第3日曜日

中野区新井1-30-6
第1三宮ビル1F
Tel: 03-5343-1316

bar&kitchen kanna

お一人でも気軽に楽しめる、食事もできるShotBarです。ビール、バーボン、焼酎からカクテルまで、豊富なお酒と、季節の素材を取り入れた手作りのオリジナル料理を、4/500円~と手頃な料金でご提供いたします。

木とテラコッタを基調にしたギャラリー風の店内は舞台スタッフの手作り。ぬくもりの中に遊び心が溢れ、くつろげます。作品の展示、音楽、演劇等のイベントも企画スペースの提供も行っておりますので、興味のある方はご相談ください。各種パーティー、打ち上げにも最適です。



Ken-ichi Shinozaki,
architect

Voice: +81-3-3220-0644
Facsimile: +81-3-3220-0640;
e-mail: geta-s@t3.rim.or.jp
篠崎健一アトリエ

編集後記
からす新聞第七巻五号(通巻第七十七号)無事、発行できました。新聞に限らず、これからも新企画目白押しなので、みなさんの御協力をお願いいたします。御意見・御要望をぜひお寄せ下さい。次号発行予定日は二〇〇五年六月二十五日です。編集協力者、特派員記者、及び、投稿を熱烈にお待ちしております。

1クラス4人までの少人数制学習塾

ファミマ

中野区本町2-50-12 ドエル中野201号
03-3379-1451

宝仙寺
ファミマ
おうめかいどう
中野板上駅